

## 第 2 回研究会における主な意見と対応案

	指 摘 事 項	対 応 案	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の行政マネジメントの視点は国にあって、国が積極的にマネジメントに関与するということがまずありきかと思うが、資料では、国が主体的に取り組むということがきちんと表現できていないのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国が主体的に取り組むことを明確にするために、国の立場から関係者を整理した相関図を再整理。さらに、それらの関係者が港湾活動のどのプロセスにどのように関係しているのかを把握するために作成した港湾活動に対する影響マップについても再整理。</li> </ul>	資料 3
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>より実効性のあるマネジメントを目指しているのであれば、検討段階から関係者を巻き込みテーブルの上にメンバーを乗せていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マネジメントの検討状況を踏まえつつ、関係者を巻き込むことを適宜検討したい。</li> </ul>	—
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>マネジメント改革の目的は、現場サイドの改善を通じて、政策体系の改善や政策効果の向上を目指すことである。そのためには、現場の職員に対して、現場サイドの活動が国の政策に貢献しているという意識付けを行い、職員のやる気やモチベーションを高める仕組みづくりが重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場における職員の日々の活動が、港湾行政の使命や目標の実現のためにどのように貢献しているのかをバランス・スコアカードを活用して整理。</li> </ul>	資料 4

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトカム指標がどの程度、港湾行政の使命を実現するために必要であると考えているのか、どれだけ十分性を担保するか、指標を選定する方法についても、研究会の意見を吸い上げてよしとするのか、それとも定量的あるいは論理的な根拠を持たせるのかなどについても整理する必要があるのではないかな。</li> <li>・指標の選定方法としては、民間の企業の観点から言えば、例えば最終的な目標に対する寄与度の大きさを指標にプライオリティを付けるやり方もあるのではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流分野における目標である国際競争力の強化や、国民生活の質の向上等の指標に対する当該指標の定量的な評価は困難であることから、ロジックモデルによるアウトカムの因果関係、指標については、アウトカムへの重要度、データの収集性・継続性等を考慮し選定することとしている。</li> </ul>	資料 4
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より実効性のあるマネジメントを目指しているのであれば、指標がうまく動くかなどについても検証が必要ではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選定した指標が実効的であるかどうかについては、過去のデータを利用するなどしてチェックテストを実施したいと考えている。</li> </ul>	—
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスの世界では設備をベースとした事業をする場合、資金の回転率、つまり ROA(return on asset)の最大化を追求するような目標が一般的なので、これを指標としてベンチマーキングするような考え方があっても良いのではないかな。ただ、行政の場合、何を以てリターンを測定するのかという問題はある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政におけるリターンの測定などについては様々な研究が行われているが、まだまだ検討すべき課題も多いことから、その研究動向を見極めつつ、今後取り組むべき課題と考えている。</li> </ul>	—